

工場本部 生産部門 班長
MIPHON
SUPHACHAI



旭紙工にはたくさんの技能実習生がいます。長年の在日経験を活かし、翻訳もしながら活躍しているのが、今回ご紹介するスパチャイさん。社内では「ビール」という愛称で親しまれています。なぜ当社に入社したのか、そして仕事に対する思いなどを伺いました。

——まずは入社のかっかけと、現在のお仕事内容について教えてください。

26歳のときに友人の紹介で入社しました。日本にきたのは21歳で、島根県の機械をつくる企業で働いていました。電池をつくる機械

や検査機など、色々な機械をつくっていました。そこから一度タイに帰国しましたが、もう一度日本で働きたいと思い、アットホームな旭紙工に惹かれ、入社を決意しました。カレンダーシーズンに断裁を担当し、シー

ズンを終えてから無線綴じにおります。

——やりがいを感じる瞬間はどんなときですか？

折部門においては、機械のセットを自身でし、きれいな製品ができあがったときは、やりがいを感じます。現在は無線部門に配属されたばかりで、機械のセットもできないため、これから頑張りたいと思います。

——当社の良いところはどんなところでしょうか？

日本人、ベトナム人、タイ人いろいろな人たちがいるところと、工場長、部門長、皆さんが、ときに厳しく、ときに優しく接してくださいます。和気あいあいと楽しく仕事ができ、色々なイベントもあるところが、良いところだと思います。

——最後に、今後の目標をお願いいたします。

無線の機械のセットを早く覚えること。そして、研修生たちにもっといろいろな機械のセットができるよう、通訳しながら教えられようになりたいと思います。

仲間にも恵まれ、「仕事が好きだ」と語るスパチャイさん。今後の活躍に期待です！



Message For You

今回表紙を飾ったスパチャイさんへ向けてのコメントを上司である無線綴部門 課長 有松健二 さんより頂きました！

主に折と断裁を見てくれています。現在は夜勤勤務。機械や周りを見る能力が高く、夜勤で働いてくれている実習生の面倒もよく見てくれています。責任感が非常に高く、作業の指導や終了後の片付けの指示・指導を積極的に行ってくれています。現在本社にて、無線関係の断裁・折、更には無線綴じを覚えて行ってもらっています。無線を覚えてもらい、ビールさん主体で、実習生と無線ラインを稼働できるようになっていただきたいです。

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17.6億円
- ◆ 従業員数：200人

幹部たちの

ビジョンとパッション

第1弾

経営陣が考える旭紙工の核とこれからについて共有するこの企画。第1弾は、橋野社長。
「お客様の当たり前に挑戦する」と決意したきっかけや、社長として考える広い意味での
「安全」についても深く語っていただきました。

旭紙工の
ここがすごい！

強み

24時間体制の生産と 多彩な商品展開、 それを支える人材の教育

当社の強みは、24時間体制の圧倒的な生産力と、多彩な商品展開にあると自負しています。中綴じ、無線綴じ、折り加工などの技術を備え、様々なタイプの卓上カレンダーや、いざというときに役立つ機能的な「命のお守り」など、ニーズを想定した商品を開発してきました。

コロナ禍には、管理面でもレベルアップを果たしました。その一つが、セキュリティ強化のために設置した「見守りカメラ」です。120台のカメラで、生産現場の安全性を24時間見守っています。その他にも、機械による検査を導入し、検査精度の向上を実現しました。

もちろん、現場を動かす従業員の働きぶりや教育体制にも自信を持っています。朝礼では、全従業員との情報共有を徹底しています。また、一人ひとりのレベルに合った目標設定と、そのプロセスを通して成長できる教育を整備してきました。

2か月に一度、上司と部下で達成状況を確認し合いながら、各自のゴールを目指しています。



見守りカメラ

今後長期的に成し遂げたいこと

複数の班長による 現場管理体制の確立

経営課題としても掲げていることですが、人を大切にすることであるために、社員の待遇向上と、安心して働ける職場づくりに力を入れ続けたいと考えています。

その一環として、2024年から、工場管理のリーダー職を新たに設けました。

以前は、部門長に管理業務を一任していたのですが、それでは末端業務まで対応しきれないという問題があったためです。そこで、26名を「班長」に任命し、メンバーの育成や細かな業務管理を担当してもらうことにしました。新入社員、女性社員、技能実習生を終了して正社員になったタイ人など、班長の顔ぶれは様々です。水曜日・土曜日を実施する班朝礼を見ていると、いかに教育を行きわたらせるかなど、ポテンシャルの高いチームづくりにむけた、班長たちの気概が伝わってきます。



班長朝礼

橋野社長の
考えとは？

代表取締役社長
はしの まさゆき
橋野 昌幸さん



社長としての信念

サービス業の目線で 展開する製造業

「お客様の当たり前に挑戦する」という前提を大切にしています。この考えに至るきっかけになったのは、私が学生の頃に登場したコンビニエンスストアの台頭です。コンビニができたのを境に、街から駄菓子屋、本屋、タバコ屋などが次々と姿を消しました。その光景を見て、「明るい店内で色々な種類の商品を買うことができるのが、お客様にとっての潜在的な理想だったからだ」と気づいたのです。このことは、どのような商売にも通じるのではないのでしょうか。

当社は製造業ですが、そういう目線を持つならば、サービス業でもあります。ニーズやご要望をしっかりと把握した上で商品やサービスを提供することはもちろん、報・連・相の速さも満たした、「任せて安心」な企業を目指しています。

仕事をする上で大切にしている考え方

お客様目線を持ちつつ、
従業員やその大切な人が
安心できるように

商売の原理・原則は、世の中の役に立つものを提供することにほかなりません。世界中のどのような会社でも、お金を払ってくれるお客様がいて、そこから利益が生まれ、従業員に分配することで生活を成り立たせているからです。そのため私は、自社の論理をお客様に押し付けるのではなく、常にお客様目線で商売のあり方を追求しなければならないと考えています。

その上で、従業員には、以下の3つの基準で業務上の判断をするようお願いしています。最優先すべきなのは「安全」。続いて「顧客満足」、3番目が「効率化」です。つまり、たとえお客様が喜ぶことでも、従業員を危険な目にさらさない。いくら効率的であっても、お客様が喜ばないことはしない、ということです。また、「安全」とは、単に現場の作業上のことでだけではありません。従業員の家族や大切な人が安心して過ごせる状態を実現してこそ、真の安全の達成だと思っています。